

令和3年 10月 29日 発行

こ う じ え ん

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL : 0193-64-2220

FAX : 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL : 0194-22-3115

FAX : 0194-22-2806

コロナ禍 2年目の普及活動 ～半年間の振り返り～

宮古農業改良普及センター所長 加藤 満康

冬立つ日に山壁から仰ぐ空は青く、川は底まで澄んでいます。皆様には、収穫への感謝とともに一安堵しているところと存じ、農作業の労を労わせていただきます。

さて、新型コロナ感染は第5波が大きくなり、宮古にも押し寄せました。当センターの行事は出来るだけ開催してきましたが、感染が拡大した8月には、人が集まる行事の延期や中止、さらに職場の交代勤務に踏み切りました。準備してきた行事の見送りは何分辛い思いでしたが、個別対応や行事の再開など関係者と力を合わせてフォローに努めています。皆様には、就農希望者や学生の受け入れ変更にも、温かい対応を賜っておりますこと、改めて感謝を申し上げ、今後ともお力添えをお願いします。

当センターの業務は第5波の時期を除いて、農家巡回、指導会や行事など概ね予定どおり行いました。農業生産では何度か気象災害もありましたが、水稻は生育が早まり作柄も良く、「銀河のしずく」の生産も30haほどに増えました。野菜はブロッコリーの生産が30haを超えて更なる拡大の取組を進め、特産の畑わさびやシソの生産も良好でした。一方で、他の野菜品目の価格低迷に米価下落が加わり、気を引き締めています。りんごでは春から凍霜被害の対策に走って今は収穫の無事を祈り、畜産では共進会の中止など丑年らしい場が少ないなか、農家や牧野を巡回して新技術導入などの現地指導を重ねました。

次に地域振興では、赤前の復旧水田で知事による田植えと稲刈りが行われ決意を新ため、台風復旧後の襲野の農地では、その全てで作付け出来ました。また春から新規就農の相談者が増加しており、農業の良さも厳しさも理解して決断出来るよう支援に努めています。食の伝承では、次代を担う高校生に郷土料理を伝えることができました。

思えば、新型コロナの発生から様々なことがあり、生活も変わりました。変化の激しい時代にあって皆様には、経営安定化のために保険制度などの備えを確認するとともに、冬に向かって営農を振り返り、来年の目標を描いて身近な方と共有して頂ければと存じます。当センターでも、皆様の経営展開を一層支援して参ります。

結びに、先人が冷害や津波などの困難を乗り越えてきた歴史は今に生きています。同じように皆様の日々の営みが、新しい時代の姿へと変わりながら、引き継がれていくことを心からお祈りします。



今年度の普及活動を紹介します

○畜産

【肉用牛：放牧看視作業省力化に向けた小牧区化等の実証】

岩泉町の日本短角種放牧地では、広大な牧野の牛の看視作業に多大な労力と時間を要しています。

当普及センターでは、牧野の看視作業の省力化と看視作業時間の軽減を目的とし、鈴峠牧野と釜津田牧野において「電気牧柵を活用した小牧区化等利用方法」の実証を行いました。

実証結果はとりまとめ中ですが、看視人は「小牧区化により牛の放牧されている場所が把握できるため、牛の搜索時間が短くなり、看視作業がとても楽になった」と、小牧区化の効果を実感していました。

【酪農：搾乳機器の見直し実証(夏季)～洗浄度の見える化～】

今年度、当地域の更なる高品質生乳生産に向け、管内2農場で「バケットミルクカー・開放式バルククーラーの洗浄手法の見直し実証」を行いました。

搾乳機器の洗浄度の確認には、ATP迅速検査キット(生物的汚染度をその場で数値化できるもの)を活用しました。検査結果より、「集乳後すぐの洗浄」と「適正な温度・濃度による洗浄」を実践したことで、2農場とも、洗浄手法見直し後のATP値が低下しました。冬季は、洗浄の温度に注目し、実証を行う予定です。

【担当：姉帯・山本・伊藤】



小牧区化の様子



サンプリングの様子

○野菜

ブロッコリーの生育斉一化と省力化を図るため、田野畑村(株)佐々木農場で、「底面給水育苗」と「スーパーセル苗」を組み合わせた秋どり作型の技術実証を行っています。

「底面給水育苗」は、給水マットなどを敷いた育苗床の上に、セルトレイを置き、トレイの底面から給水する育苗方法で、均質な良苗生産ができるとされています。「スーパーセル苗」は、慣行の2倍以上の期間をかけて追肥せずかん水のみで育てた苗のことで、徒長せず常温での苗貯蔵も可能で、耐乾性や耐病虫性も高いとされています。

実証結果は現在とりまとめ中ですが、スーパーセル苗が慣行苗よりも定植後の生育が早く、揃いが良い傾向が見られました。今後、収量調査等を実施し、実証技術の実用性について更に検討していきます。

【担当：佐々木(久)・千葉(安)】



スーパーセル苗



圃場見学会

米価下落に関する相談窓口が設置されました

令和3年産米の価格下落により影響を受ける生産者からの相談に対応するための窓口が宮古農林振興センター(TEL:0193-64-2214)と宮古農業改良普及センター(TEL:0193-64-2220)に設置されました。管内の生産者におかれましては、資金繰りや今後の作付け、生産技術対策等の営農全般に関しての相談にご活用ください。

また、セーフティーネットの活用(収入保険や収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)への加入等)により米価下落に備えましょう。

【担当：住川・高橋(智)】

土壌診断を行いましょ

秋には作物の収穫が終わり、農作業がひと段落します。土壌診断を行い、土壌の状態を正確に把握して翌年の適正施肥に生かしましょう。

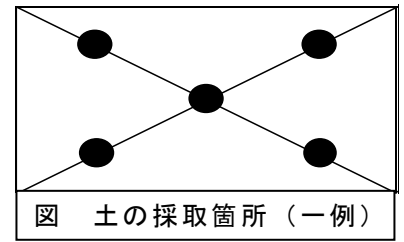


図 土の採取箇所（一例）

1 土の取り方

1つの圃場につき5か所から採取します（右図参照）。採取量は、1か所あたり移植ゴテで1すくいが目安です（土壌表面1cm程度を除き、深さ15cmの表層から深層まで）。

2 土の調製

- (1) 風通しの良い日陰にうすく広げて土をよく乾かします。
- (2) 土が固まっている場合は砕き、2mmのふるいを通します。
- (3) 封筒に土を200g程度入れ、窓口を持参します。

3 窓口及び問合せ先

市町村	窓口（問合せ先）	電話番号
宮古市 山田町	J A新しいわて宮古営農経済センター米穀園芸課	0193-69-3220
岩泉町	J A新しいわて宮古営農経済センター岩泉地区担当課	0194-22-2311
田野畑村	J A新しいわて宮古営農経済センター田野畑集荷場	0194-34-2033

※ 農協以外の分析機関については、普及センターにお問い合わせください

※ 分析機関によっては、必要な土壌の量や調製方法が異なる場合があります

【担当：佐々木（貴）】

農薬を適正に使用しましょ

秋冬期に栽培される施設栽培葉菜類において農薬残留基準の超過事案が発生しております（下表参照）。以下の事項に留意して農薬の適正使用に努めましょう。

- ・ 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認したうえで使用するとともに、農薬の使用記録を残しておくこと
- ・ 農薬散布器具、収穫容器、農作業用具等の洗浄不足がないか点検すること
- ・ 上記のほか、農薬の飛散防止や前作に使用した農薬の土壌残留による次期作への影響にも十分に注意すること
- ・ 農業生産工程管理（GAP）の取組により、食の安全・安心確保の取組を一層強化すること

表 県内産農産物における農薬残留基準値超過の事案（一例）

年度	時期	作物	検出成分	検出濃度 (ppm)	基準値 (ppm)	原因	備考
令和2年	5月	ほうれんそう（施設）	殺虫剤成分（エトフェンプロックス）	0.18	0.01	適用外使用（ほうれんそうに適用のない殺虫剤を使用）	・ 保健所からの回収命令 ・ 回収命令対象外の出荷物の自主回収 ・ 出荷を中止
平成24年	12月	しゅんぎく（施設）	殺菌剤成分（フェンバレート）	1.23	0.50	散布器具の洗浄不足（他作物に使用した農薬が残存していた）	・ 保健所からの回収命令

【担当：千葉（安）】

令和4年産水稻「銀河のしずく」の作付募集開始

令和4年産「銀河のしずく」の作付募集が始まりました。いもち病に強く、倒れにくい
ため栽培管理がしやすく、品質・食味も優れており、宮古管内における作付面積は増加中
です。作付けを希望する方は下記報告先までご連絡ください。

- 1 受付期間：令和3年10月12日（火）から12月24日（金）17：00まで
- 2 主な作付要件
 - ・ 作付水田が栽培適地にあること（詳細は普及センターまでお問い合わせください）
 - ・ 前年の主食用米の作付面積が概ね市町村平均（宮古40a、山田61a）以上
 - ・ 農産物検査で過去2年間（令和元～2年）の1等米比率の平均が県平均（94%）以上
- 3 報告先

J A出荷者	個人販売をされている方
新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター TEL：0193-69-3220	宮古市 TEL：0193-68-9094 山田町 TEL：0193-82-3111

【担当：小野】

宮古地域復興りんご「大夢」の販売会が開催されます

宮古地域大夢栽培研究会は、岩手県オリジナルりんご品種「大夢（おおゆめ）」の宮古
地域での認知度向上に向けて、宮古地域復興りんご「大夢」の販売会を開催します。

「大夢」ならではの歯触りと豊かな果汁を、是非御賞味ください。

開催日時並びに場所、内容は以下のとおりです。

- (1) 日時 令和3年11月13日（土） 9：00～15：00
- (2) 場所 出崎産地直売施設組合店舗（シートピアなあと内）
- (3) 内容 「大夢」生果及び加工品の販売、アンケート



いわて宮古地域・復興りんご

大夢
おおゆめ

【担当：千田】

「いわてアグリベンチャーネット」メーリングリストを開設しました

県では、「いわてアグリベンチャーネット」メーリングリストを開設しましたのでお知
らせします。本メーリングリストでは、ホームページ「いわてアグリベンチャーネット」
(<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>) の農作物技術情報や病害虫に関する情報、
現地の情報等を定期的に発信します。

登録を希望する場合は、別添チラシを参照のうえ申込みをお願いします。

【担当：佐々木（貴）】

「新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業相談窓口」を ご活用ください

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業相談窓口が、宮古農林振興センター
(TEL:0193-64-2214) と宮古農業改良普及センター (TEL:0193-64-2220) に設置されてい
ます。管内の生産者におかれましては、生産活動や経営等の相談にご活用ください。

【担当：住川】